

平成 29 年度第 5 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2018 年 4 月 28 日（土）12:40～16:30

場所：大阪大学産業科学研究所・インキュベーション棟 1 階講義室

東京大学工学部 3 号館 6 階大会議室 3（6B04 号室）ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 17 名 出席理事 17 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事（副会長）	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	大上 雅史
理事	須藤 雄気	理事	諏訪 牧子
理事	豊島 陽子	理事	中井 孝尚
理事	西坂 崇之	理事	林 重彦
理事	原田 慶恵	理事	坂内 博子
理事	光武 亜代理	理事	宮田 真人
理事	渡邊 宙志		

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事 木寺 詔紀
監事 七田 芳則

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	佐甲 靖志
欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	金城 玲
平成 31 年度年会実行委員長	永井 健治
関東支部長	由良 敬

陪席者：

会長室	神瀬 麻里子
学会事務局	向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹

議事録作成者：理事 坂内 博子

報告事項一覧：

1. 平成 30 年度年会準備状況（須藤）：報 1
2. 平成 31 年度年会準備状況（永井）：報 2
3. 出版委員会報告（野地）：報 3
4. 広告について（内橋）：報 4
5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田）：報 5
6. 生物科学学会連合連絡会報告（渡邊）：報 6
7. IUPAB・ABA 関連報告（野地）：報 7
8. 賞・助成金推薦委員会報告（高田）：報 8
9. 滞納 3 年以上の会員への督促結果報告（光武・大上）：報 9
10. 地区報告
 - 東北地区（神取）：報 10
 - 関東地区（由良）

その他

審議事項一覧：

1. 平成 31・32 年度会長候補の選出（神取）：議 1（配布なし）
2. 平成 30 年度事業計画（案）（野地）：議 2
3. 平成 30 年度予算（案）（諏訪）：議 3
4. 出版委員会関連議題（野地）：議 4
 - ・会誌編集委員会議題
 - ・HP 編集委員会議題
5. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田）：議 5
 - ・生物物理若手の会第 58 回夏の学校への支援について
6. クリアファイルの作成について（高田）：議 6
7. 啓蒙事業関連議題（中井・原田）：議 7
8. シニア会員制度の周知について（光武・大上）：議 8
9. 平成 30 年度総会シンポジウムについて（林）
10. 定時社員総会開催について（神取）：議 10
11. 今後の TV 会議システムについて（神取）：議 11

その他

定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長 神取 秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 17 名により過半数を超えた。

定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

報告事項：

1. 平成 30 年度年会準備状況（須藤）：報 1

沈 建仁 実行委員長の代理として須藤 雄気 氏が 2018 年度の年会準備状況を報告した。

- オンライン演題登録を開始。一般発表選択肢は「ポスター」・「口頭発表」・「どちらでもいい」に設定。
- 年会ポスター、市民講演会ポスターを作成・配布。市民講演 Web 申し込みサイトを設置。現時点で 50 人程度の申し込み。
- 企業展示スペースの横に、「アカリク相談」用の専用ブースを設置する。
 - ◇ 場所代は学会から負担し、年会会計に計上。
 - ◇ アカリクスペースの横に、「ジョイントマット」スペースを設置予定
 - ◇ 学会会場とは別のスペースになるので、積極的な呼び込みが必要。
- 年会収支。現状、収入が上回る見込みで懇親会費として使用予定。
- ランチョンセミナーの申し込み状態が不調。今 3 件のみ。
- 他の理事からのコメント・質問

2 国間シンポジウムへの参加者に対し、採択された科研費から「生物物理学会として」滞在費等に支出し、BPPB を宣伝してはどうかとの意見が寄せられ、賛同が得られた。

2. 平成 31 年度年会準備状況（永井）：報 2

2019 年度年会の準備状況について永井 健治 氏より報告があった。

- 3/11, 12 に宮崎大学を訪問、現地委員と面談。
 - ◇ 現地委員は非会員。生物工学会のメンバーとして参加、ジョイントシンポジウムを設ける。
- シーガイア現地視察。4F 部分に集中し、3F 部分をキャンセル。会場を一体化することで、企業側の不満も解消される見込み。
- 懇親会場は屋外に設定。雨天時の代替場所あり。
- 宮崎県内の SSH を訪問。ポスター会場にジュニアセッションを設け、大物科学者のポスター訪問などを想定。好評な学校と、部活が活発でないとの理由で消極的な学校あり。

- 市民講演会 前日の祝日に行くことを検討。一般市民でも知っている著名な科学者を招聘する。
- 交通手段、宿泊。旅行会社と価格を抑えたパックプランを相談中。次回の理事会（定時社員総会）までに具体的な手段を決定する予定。
- 会期中常に基調講演が行われている会場を設置。Diverse な生物物理学会の分野の面白さがわかる場として、その分野における発展と展望を述べる場所。今活躍中若手中心。一人 15 分。約 40 演題を想定。生物工学会とのタイアップ企画。英語の予定。
- 他の理事からのコメント・質問
理事から、「基調講演」という名前はふさわしくないとの意見がでた。
- ピッチトーク（ベンチャー企業の人たちが 30 秒～1 分でアピールする場）をイメージ。15 分という短い場で面白さを伝えるイメージ、具体的なことは未定であるとの説明があった。

3. 出版委員会関連議題（野地） ：議 4

- ・ 会誌編集委員会議題
- ・ HP 編集委員会議題

野地 博行 氏より出版委員会の報告があった

- 邦文誌に関して
 - 生物物理 投稿規定・執筆要項の改定の提案があった。具体的には審議事項参照。
- 欧文誌に関して
 - BPPB の投稿数の報告。投稿数は、大きく増えていない。PDF のダウンロード数も増えていない。PR に注力、そのために科研費も使っていく予定。
 - BPPB の国際性を高めるため、レビュワーに外国人を入れることが提案された。エディターへの依頼メールや、投稿画面において、自国以外のレビュワーを入れることを推奨していく。
 - 掲載数を 50/年に増やすことが目標。Editor の権限を高めることことも考慮にいられている。
- 科研費
 - 石渡先生、永井先生のご尽力で、国際情報発信強化(B)に採択。今年度 370 万円の使用内訳は報 3-3 のとおり。「掲載支援経費」は、招待論文のページチャージを負担する。著名な著者を招待するために、増額して計上。
 - 科研費の「広告・宣伝費」は HP 改定のための費用を含む。現在、HP の業者選択中。

➤ BPPB として、招待・依頼論文を増やす方針を検討中。

4. 会誌「生物物理」広告について（内橋） : 報 4

内橋 貴之氏より、広告収入についての報告があった。

➤ 1 件減。

➤ 広告収入は、ここ数年は横ばい状態。広告単価が減少したことが原因。

5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田） : 報 5

高田 彰二 氏より男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。

➤ 岡山年会の男女若手のシンポジウムについて。

◇ 世代間の意識・置かれている状況の違いをテーマとしてシンポジウムを、3 日目の昼休みに設定。

◇ 昨年のアンケートの結果(データ)を踏まえたプレゼンテーションをもとに、若手の意見、様々な世代からのパネリストからの意見を募る。

◇ 「働き方改革」に関する、世代による意識の違いを可視化する。

◇ キャリア支援シンポジウムは、昨年度と同様に株式会社アカリクに依頼。

➤ 学協会連絡会について

◇ 女子中高生夏の学校の支援金として、1 学会 5 万円の支援金を打診された。【審議】理事会として、5 万円の支出を認めた。

◇ 大規模アンケート後の「学協会からの要望書」が 10 月までに取りまとめられる予定。生物物理学会での審議が必要。

◇ 学協会分担金について。今年は 1 万円。

6. 生物科学学会連合連絡会報告（渡邊） : 報 6

渡邊 宙志 氏より生物科学学会連合連絡会（生科連）に関する報告があった。

➤ 生科連から国際生物オリンピックに対する 30 万円を支出が可決。

➤ ConBio の今後について。生物物理学会からの意見に謝意が示された。

➤ 今後の ConBio は、トピックごとに絞ったシンポジウムを執行部が提案して実施する方針。執行部の素案では、SDG (sustainable development goal 持続可能な開発目標) を主軸にしたシンポジウムはどうか? という提案がなされている。

➤ 生科連の役員改選について。今季で改選が行われる。9/21 までに、各学会から推薦を受け付けている。最大 1 名。被推薦者は ConBio 学会会員。

■ 理事から、現生科連会長選定時は、各学会の会長間の話し合いで決まった、との情報提供があった。

7. IUPAB・ABA 関連報告（野地） : 報 7

野地 博行 氏より ABA に関する報告があった。

- 3年に1度の ABA が 2018 年 12 月 2-6 日にメルボルンで開催される。
- オーストラリア生物物理学会がホストとなって、シンポジウムを行う形。
- 日本の invited スピーカー:メカノバイオロジー曾我部先生、NMR 島田先生
- 旅費のサポートについての議論があった。前回のとおりに、学会を通して、旅費（航空機代）のサポート募集をかけるとの結論になった。

8. 賞・助成金推薦委員会報告（高田） : 報 8

高田 彰二 氏より賞・助成金推薦に関する報告があった。

- 江崎玲於奈賞に学会員 1 名の推薦を打診したが、辞退されたため生物物理学会からの推薦はなし。
- 日本学術振興会賞に 1 名の応募があり、候補者として推薦した。
- 今後は、例年の予定を見据えて、学会として推薦計画をたてていくべきかどうかについての議論がなされた。

9. 滞納 3 年以上の会員への督促結果報告（光武・大上） : 報 9

光武氏から、督促結果の報告があった。

- リストの中から、正会員 3 人が納入した。学生会員 1 名退会。
- 正会員 1 名、学生会員 1 名から、近日中に納入との連絡
- 学会員の推移は資料のとおり。

10. 地区報告

東北地区（神取） : 報 10

関東地区（由良）

神取 秀樹 氏より東北支部の活動について報告があった。

- 12 月 22 日に支部会をおこなった。

由良 敬 氏より関東支部の活動について報告があった。

- 3 月 13-14 日に東京大学駒場キャンパスで支部会を開催した。44 件口頭発表。100 名程度が参加した。
- 第 8 回は青山大学の相模原キャンパス（3 月）に決定。
- 役員変更なし
- 2020 年の年会の準備状況に関する報告があった。
 - ◇ 2020 年の年会を場所は群馬コンベンションセンター（現在順調に工事中）

で仮予約。

◇ 2020年9月16-18日

◇ プログラム委員会等も決まっている。

◇ 3月に大沢先生と由良先生がAE企画と打ち合わせ。

理事から、群馬年会の直後に続く、ブラジルでの国際生物物理を考慮して進めてほしいとの意見がでた。

審議事項：

1. 平成31・32年度次期会長候補の選出（神取）：議1（配布なし）

- 代議員、理事の投票結果に基づき、時期会長候補が決まった。
- 得票順に、会長から直接電話で打診する。

2. 平成30年度事業計画（案）（野地）：議2

- 野地 博行 氏より平成30年度事業計画案について説明があった。前回の理事会からの変更点は以下のとおり。
 - 学術誌・学術図書の発行
科研費が採択に伴い、「国際情報発信強化」を正式な活動として追加。

3. 平成30年度予算（案）（諏訪）：議3（改）

- 前回の理事会からの変更点は、受け取り補助金「科学研究費補助」。
- 収入・支出ともに、年会予算の報告をもとに更新している。
- BPPB 関連の支出は、科研費の交付申請書を反映。
- 資産9000万円を超す見込み。
- 理事からのコメント・質問
 - 年会から赤字を出さないプレッシャーが大きいとの意見があった。経理担当理事からは、必要分は全部含んで予算申請していただき、理事会で認められれば問題がないとの回答があった。
 - 租税公課とは何か？との質問があった。それに対し、前年度の会計をベースにかかる税金であり、法人化して3年目であるH29年度以降にはっせいする税金であるとの説明があった。
 - BPPB 促進経費を、投稿数を増やすために配分したいとの意見があった。科研費の交付申請内容は変えられないため、バッファー予算から追加してサポートすることは可能であるとの回答が示された。

上記予算案を、理事会として承認した。

4. 出版委員会関連議題（野地） : 議 4

- ・ 会誌編集委員会議題
- ・ HP 編集委員会議題

- 「生物物理誌」投稿規定、執筆要項の改定について、改定の意図が以下のとおり示された。
1. 投稿できる種別の明確化
 2. 編集委員の役割の明確化
 3. 転載の許可
 4. 投稿の電子化
- 理事からクリエイティブコモンズとの整合性が指摘された。編集長からは、BPPB 誌と同じく CC-BY-NC-SA の基準であるが、CC-BY-NC-SA マークはつけないとの方針が示された。

これらの改定は、理事会にて承認された。

- HP に関して、以下の議題について承認が求められた。
- 移動に伴うホームページ編集委員長のについて
 - HP の刷新について
 - ビデオアーカイブスを追加に伴って導入した SSL 認証に対する、毎年 1 万円の支出
 - BPPB の HP のフォーマットを統一

上記の内容を確認の上、理事会において承認された。

5. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田） : 議 5

- 平成 30 年 8 月 27 日(月)~8 月 30 日(木) 岐阜生物物理若手の会第 58 回夏の学校への支援について、以下の点について承認が求められた
- 支援団体として生物物理学会からの 20 万円の支援
 - 講師が全員男性である（女性がいない）という点への経緯を質問

理事会として、若手の育成のために 20 万円の支援を承認した。

6. クリアファイルの作成について（高田） : 議 6

様々な活動で配布しているクリアファイルを追加で 1000 枚作成する件に関し、以下の

点に関し承認を求められた。

- デザインの一新を行った。片面を生物物理(邦文誌タイトル)から、**Biophysics and Physicobiology** (欧文誌タイトル)にした。
- 学会の HP にアクセスできる QR コードを配置。

理事から、生物物理ロゴの追加、写真の著作権の確認についてのコメントがあった。最終デザインは理事にメールで確認するという方針で、理事会で承認した。

7. 啓蒙事業関連議題 (中井・原田) 中井 : 議 7

- 講師派遣事業の資料を送付する学校を増やす (郵送費の増加) ことについて、承認を求められた。

理事からは、学校の重複や、高等専門学校を追加する点についてコメントがあった。上記事業は理事会で承認した。追加の送付先・連絡先については、担当者に連絡することになった。

8. シニア会員制度の周知について (光武・大上) 光武 : 議 8

以下の点について審議を行った

- 会員から、シニア会員 (満 65 歳以上、常勤の職についていない場合、申請した翌年から、会費を 4500 円) の宣伝をしてほしいという要望があり、HP の変更や周知方法を検討して対応する予定
- 除籍者へのシニア会員対応について
- 料金表にシニア会員の項目がない。HP の料金表と、オンライン会費支払の項目に加えるべき。変更してもよいか審議いただきたい。
- 理事からのコメント・質問
 - 「退職」という条件は必要ないのではという意見が出た。「退職」の文言は削除する。方針で対応。
 - 滞納している 66 歳が問い合わせしてきたとき、65 歳から対応するか? 滞納者に対し、遡ってシニア会費を認めるか? という質問があった。
 - 新規会員 (シニア) に対しても、シニア会員価格を認めるか? との質問があった。初年度は正会員、次年度以降シニア会員を認めるという方針が確認された。
 - HP の文言の誤りが指摘された。
 - 「常勤」の定義が曖昧だと指摘があった。「自己申告」で対応する旨が確認された。

1) シニア会員の情報を HP に記載する 2) 矛盾がある点は HP を改める、3) 除籍者

についても提案のとおりとする方針が、理事会において、決定された。

9. 平成 30 年度総会シンポジウムについて（林）

「生物物理学の根本問題」シンポジウムの、具体的なテーマ決定方針についての議論がなされた。

- テーマは **classic** なものでも、未来志向のものでも良い。
- 議論の内容を **BPPB** の特集として寄稿し、世界に向けて発信するのはどうか？
- まだテーマは集まっていない。理事会から提案をいただきたい。シリーズ物にするので、今後やるかもしれないので、たくさんテーマを集めたい。GW 明けにリマインダ、5 月中旬であつめ、6 月の社員総会で決定というスケジュールですすめたい。
- 理事からのコメント・質問
 - 複数の根本問題を扱うのか？それとも 1 個に絞るのか？という質問が出され、「一つの根本問題に絞り、多様なアプローチから見る」という方針が示された。
 - 日本語でシンポジウムを行うことについて、生物物理学会年会の英語化との整合性についての質問がなされた。それに対し、一方、臨時社員総会は「年会」とは切り離されたイベントであり、年会において、唯一日本語で議論できる場として例年行っているとの説明がなされた
 - 担当理事より、議論の内容を **BPPB** の特集として寄稿したいとの方針が示された。それに対し、今回の優先順位は総会を成功させることで、面白い企画であることが大事だが、**BPPB** とのリンクについては後日考えるとの方針が示された。また **BPPB** にこだわる必要はないが、議論の結論は残すのが望ましいとの意見が出た。

10. 定時社員総会開催について（神取） : 議 10

資料の通り。理事会にて承認された。

11. 今後の TV 会議システムについて（神取） : 議 11

12 月からの理事会より、学会で新たに TV 会議システムを構築する必要がある。その方針について以下の審議を行った。

- システムの候補が 2 件（Lifesize cloud/V-CUBE）。
- 学会として導入するか、中西印刷が導入したシステムを利用するかの 2 つの方針についてコスト面、利便性等を議論した。
- 理事からのコメント・質問
 - 中西印刷側は導入に問題無いのか、どういった運用を考えているのかの質問があった。中西印刷からは、すでに導入の決済は下りている。運用の詳細については、

相談させてほしいとの回答があった。

- 録音が取れる V-CUBE がよいとの意見があった。

V-CUBE について見積もり取得し、6月に決定する方針で合意した。

12. 非会員の年会参加費について、以下の問題提起があった。(光武)

- 前々回の理事会で会員との公平性の問題から、非会員にも参加費と懇親会費を負担してもらうべきではないか？シンポジウムのオーガナイザーと発表者について規定を作った方がいいのでは？との提案をした。
- しかし、非会員の参加費無料、懇親会費無料は、そんなに負担とは思ってはいないという印象を受けた。
- 岡山では、非会員も「懇親会費」を払うことにしたので、年会実行委員会に一任されるべきことではないかと思う。
- シンポジウム、オーガナイザーについて。オーガナイザーの1名は会員、スピーカーの半分は会員である方がいいと考える。
- 6月に決めたいが、意見をいただきたい。

【審議】

- 基本は年会実行委員会が決定するべきという意見があった。
- それに対し、年会実行委員会側は、「学会としての方針、ルール」があることが望ましいとの意見があった。実行委員間の意見集約が大変であるとのことであった。
- 岡山年会では非会員シンポジストは会費無料、懇親会費有料とした。
- 岡山年会のシンポジウムに関しては、1シンポジウムだけ、オーガナイザー非会員、シンポジストも全員非会員という提案があった、チェックはしたが学会として原則があるのが望ましいとの意見があった。

以上の意見を受けて、実行委員が負担であれば、学会として考えるのが望ましく、6月に方針を決定することに決定した。

連絡事項

1. 次回理事会日程について (神取)

平成30年度第1回理事会

日時：2018年6月23日

場所：新大阪丸ビル新館 804号室

11:00～

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 16:30 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 30 年 4 月 28 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 29 年度第 5 回理事会

代表理事 神 取 秀 樹 (印)

監事 木 寺 詔 紀 (印)

監事 七 田 芳 則 (印)